

深作の氷川神社の幟（のぼり）3

幟（のぼり）には、竿（さお）に通すための輪っかが縫い付けられています。これは通称「乳（チチ）」と呼ばれています。天保4年につくられ昭和47年まで使われていた深作の氷川神社の幟のチチは、藍色の糸で模様が刺繍されていました。それは補強のためばかりでなく、「魔除け」の意味が込められていました。その模様は

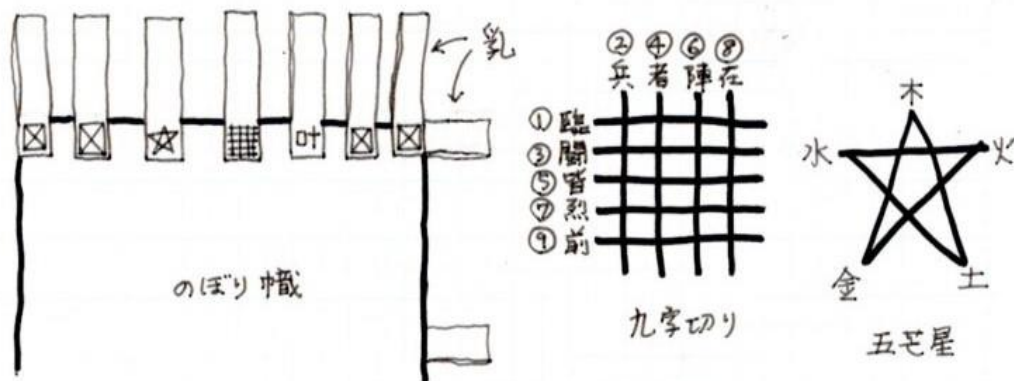
- 一筆書きの星の形で「五芒星（ごぼうせい）」とか「セーマン」「安倍清明紋」
- 縦4本横5本の井桁の線で「九字紋（くじもん）」とか「ドーマン」
- 「叶（かなう）」とかいて「叶紋」
- □（四角）のなかに×で「×紋」とか「分銅紋」

と呼ばれる4種類の模様です。

「五芒星」は安倍清明のシンボルマークとしても有名ですが、これは陰陽道で「魔除けの呪符」です。星の形は「木」を頂点にして時計回りに「木、火、土、金、水」の5つの元素を表しています。「木」から一筆書きでたどって「木は土に勝ち、土は水に勝ち、水は火に勝ち、火は金に勝ち、金は木に勝つ」となり、新しいものが作り出されていくことを意味しているのだそうです。

「九字紋」の縦横9本の線は、九字切りという護身の呪文「臨兵闘者皆陣烈在前（リンピョウトウシャカイジンレツザイゼン）」からきています。この九文字を唱えながら空中に指先で線を描くと、全ての災いを除き身を守るといわれています。これは自分に襲いかかろうとする邪悪なものに「兵に臨んで闘う者は、皆陣列前にあり」と宣言するわけです。腕の振り方は図の数字の順に振ります。九字紋は江戸北町奉行の「遠山の金さん」が家紋に使用していました。

そして「叶紋」には願いが叶うという願いが込められ、「×紋」の「×」模様は悪霊を断ち切る呪符でもあります。



東三番街 平山由喜